

着実な道路ネットワーク整備で暮らしが豊かになります

国民生活を豊かにし、経済活動を支える重要な社会資本である高速道路。いまや日々の暮らしになくてはならない存在です。道路整備は、輸送コストを下げ、交通事故を減らすなどの直接的メリットだけでなく、バランスのとれた地域社会の発展ももたらします。私たちは道路整備を担当する会社として、真に必要な道路ネットワークを計画的かつ着実に整備していくという使命をしっかりと果たします。

● 高速道路ネットワークの整備

NEXCO西日本は、高速道路ネットワークで各地域をつなぐことにより、地域間の連携に貢献しています。高速道路ネットワークを整備することは、自動車交通の混雑緩和や、地域間の交流・連携の強化につながります。現在、高速道路機構と締結した協定に基づき、高速道路ネットワークの整備促進に努めています。

2007年度から2010年度までの開通予定延長は107kmで、2010年度には東九州自動車道の高鍋～西都間(12km)が7月17日に開通、門川～日向間が12月の開通を目指し、事業促進を図っています。

▼2007～2010年度 開通予定区間

年度	開通区間	累計開通延長
2007年度	阪和道 みなべ～南紀田辺 新名神 甲賀土山～草津田上IC 第二京阪 阪高接続部～巨塚池	35km (33%)
2008年度	東九州道 津久見～佐伯	48km (45%)
2009年度	山陰道 斐川～出雲 第二京阪 枚方東～門真JCT 佐世保道路 佐世保～佐世保みなと	81km (76%)
2010年度	東九州道 門川～日向 東九州道 高鍋～西都	107km (100%)

▼2010年度開通区間概要図



● 既存ネットワークの機能向上

4車線化事業の展開

4車線化により、交通集中による渋滞が解消し、観光地などへのアクセスのしやすさが向上するとともに、制限速度上げや上下線分離構造となることから、快適性や安全性が向上し、対面通行に比べて円滑な走行が可能になります。2010年度までに、高知自動車道、岡山自動車道の3区間21kmの完成を目指し、事業の全面展開および進捗を図っています。2010年度には、岡山自動車道の5kmが4車線化の完成を予定しています。



スマートICの導入

高速道路の利便性を向上するため、スマートインターチェンジ(IC)の整備を進めています。スマートICとは、ETC専用の簡易なインターチェンジのことで、ETCカードを持っている車両以外は出入りすることができませんが、スマートICを設置することで、既存の高速道路を積極的に活用できるようになります。2010年4月1日までに、11カ所の本格導入を実施しており、現在、さらに6カ所の整備に着手しています。

● お客様の利便性向上

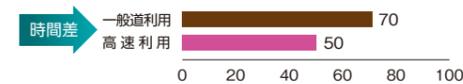
東九州自動車道(高鍋IC～西都間の開通<2010年7月17日>)

ネットワークの拡充

西都・児湯地域(西都市、児湯郡高鍋町および新富町等)と宮崎市とのネットワークを形成し、アクセスが向上します。

【高鍋町(役場)から宮崎空港までの所要時間】

- 1.一般国道10号に比べ、約20分短縮
- 2.一般国道10号混雑時には、約35分短縮

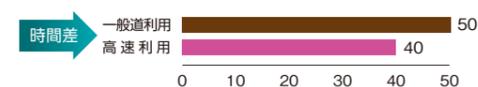


地域医療体制の強化

西都・児湯地域から宮崎市内にある3次医療施設への搬送時間が短縮され、救急医療活動への貢献が期待されます。

【高鍋町(役場)～県立病院(3次医療施設)所要時間】

一般国道10号に比べ、約10分短縮



周辺地域の活性化

高鍋～西都間の開通により、高速道路へのアクセスが向上し物流の効率化が図られることで、西都・児湯地域の観光産業や地域産業(農畜産物)の拡大・発展による周辺地域の活性化が期待されます。

東九州自動車道の建設に携わって

宮崎県の高速道路整備率は、全国的にも低い水準にあり、その整備促進が期待されます。そのため、行政をはじめ、地元の方々には東九州自動車道の建設事業に非常に協力的です。その結果、高鍋～西都間は完成予定時期より約8ヵ月早期に開通できました。当区間の開通により、救急医療活動への貢献や周辺地区の恵まれた農畜産物や観光資源の地域産業の活性化や発展が期待されます。今回の開通を地元の方々が上手く活用して地域の発展に繋げていただければと思います。



地域とともに大規模災害に備えます

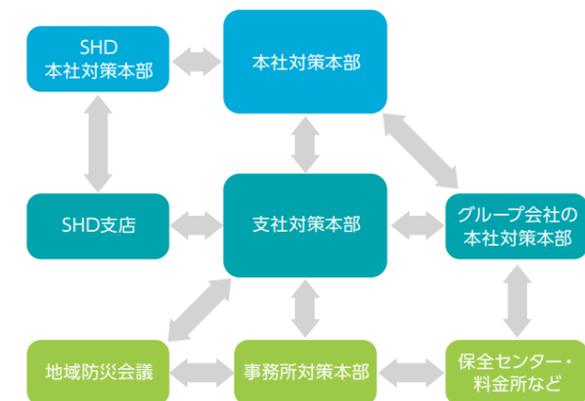
高速道路は、自動車輸送を支えるという平常時の役割だけではなく、ひとたび大規模災害が発生した際にも頼れるライフラインであり続ける必要があります。これまで、大規模災害発生時にその復興に対してしっかり役割を果たしてきました。私たちは道路を支えるプロとして、さらに防災体制の充実に努めます。

● 防災体制

NEXCO西日本グループでは、過去に経験したことのないような地震や自然災害が発生した場合にも、道路機能を可能な限り迅速に回復し、安全・安心な道路空間を提供することを目的とした防災体制の構築を目指しています。

特に西日本地域の災害特性として、内陸直下型地震や集中豪雨などへの備えが必要となるため、過去の災害事例を精査し、最新の知見に基づく磐石な体制づくりを進めています。

災害が発生した場合や、災害が発生する恐れがある場合は、その災害事象の規模に応じて「非常災害対策本部」を設置し、グループが総力を挙げて災害応急対策活動にあたります。



● 地域防災会議への参画

地震などの有事の際には、近隣自治体との連携が不可欠となります。NEXCO西日本では、高速道路沿線の地元自治体に設置されている地域防災会議に順次加入し、連絡体制などを確立するとともに、より密接な相互協力体制の構築を図っています（現在293会議中、97会議に加入）。

▼ 地域防災会議加入状況（2010年3月現在）

加入状況	加入済	未加入	計
会議数	97	196	293

● 防災訓練の実施

地震や自然災害などが実際に起こった場合、防災体制の下に迅速かつ的確に対応できることを目指し、グループ全体で訓練を実施しています。

内陸直下型地震など各種災害を想定した訓練や連絡体制の再確認、非常体制の円滑な運営を図るため実践的、効果的な訓練を行い、防災体制の問題点抽出とその実効性を検証しています。

また、防災週間、道路防災週間の期間中は、ポスターの掲示、小冊子の配布、「防災週間」および「防災の日」の広報を行い、防災意識の高揚と普及に努めています。



防災訓練



大規模事故を想定した訓練

● 防災資機材備蓄の実施

災害発生時における応急復旧や復旧作業の際には、高速道路などの交通確保に必要な交通規制材や土のうなどの資機材を速やかに確保する必要があります。NEXCO西日本グループでは、各事務所の防災業務実施規則に基づき、防災上必要な資機材を備蓄しています。また、災害発生時に協力していただく応援会社を確保、応援会社の保有する資機材や搬送方法などの把握に努めています。

地域と一体となり活性化支援と協働を促進します

NEXCO西日本グループは、地域と密着した社会資本である高速道路を担う企業としてステークホルダーの信頼構築のためにさまざまな経営資源を活用した取り組みを進めています。高速道路沿線地域を中心に幅広い活性化支援や連携・協働の取り組みを推進しています。喜んでいただける皆さまの笑顔が、私たちの励みです。

● 出張講座（教育支援）の実施

NEXCO西日本グループでは、子どもたちの教育支援も重要な課題ととらえ、積極的に取り組んでいます。例えば、管理事務所の施設を社会科の教育材料に活用していただくよう提供し、教育のお手伝いをしています。山陽自動車道 広島東料金所では、小学校の生徒20名を招待し、地域の玄関口となる料金所の見学・勉強会を実施しました。普段は見ることのできないETC機器や料金収受機械を見学したり、高速道路の豆知識をクイズで学ぶなど、高速道路施設の役割を学んでもらいました。



勉強会の様子

● 高速道路施設の沿線地域との一体利用

高速道路施設を沿線住民の方々と一緒に維持管理することにより、地域の皆さまにもメリットを享受していただくという取り組みを関係者の力をお借りして始めています。大分自動車道では、沿線の雄大な景観と調和できるよう大分森林組合が提唱する「山桜日本一の里づくり」事業とタイアップし、高速道路の盛土のり面の維持管理を関係者と協働で実施しています。樹種の選定においても関係者の皆さまと協議させていただき、地域景観との調和を実現し、地域の皆さまの声を生かした道路管理にもなっています。



地域住民と一体となって盛土のり面を維持管理

● 地域の清掃活動への積極的な参加

「しものせき美化美化（ぴかぴか）キャンペーン」の参加

本州の西の玄関口である下関には、隣国の中国や韓国から多くの観光客が来られます。市では日常的な環境美化活動へと発展させるべく美化活動「ゴミゼロ運動」が進められています。

このたび6月7日（日）早朝から市の中心部にあたる国道9号線沿いにある当市の観光のシンボルでもある赤間神宮、唐戸市場、海響館（水族館）がある唐戸から下関駅方面にかけてグリーンキャンペーンが実施されました。

メンテナンス九州（株）下関事業所では、同キャンペーンにボランティアとして10名が参加し、地元の方と一緒に清掃や除草を行い心地よい汗を流しました。



清掃活動に参加

● 地域イベントを通じた協働による活性化支援・交流促進

高速道路は地域に密着した国民の日々の暮らしを支える公共資本です。この高速道路を事業の中心に据える企業として、沿線地域にお住まいの皆さまと良好な関係を築くことは極めて重要なことと考えています。

福山東・西料金所では、福山市観光協会の協力依頼を受けて、毎年、地域の観光資源である「観光鯛網」の実施に合わせて鞆の浦の鯛網法被を着用し、積極的に地域イベントを盛り上げています。また、同時期に開催される「福山バラ祭り」についても、福山市の玄関口となる高速道路インターチェンジで案内チラシを配布するなど、地域活性化の支援・交流促進に取り組んでいます。NEXCO西日本グループは今後も地域の皆さまとの連携・協働をさらに深めて参ります。



地域の玄関口として笑顔で対応

ハッピを着て地域観光を応援